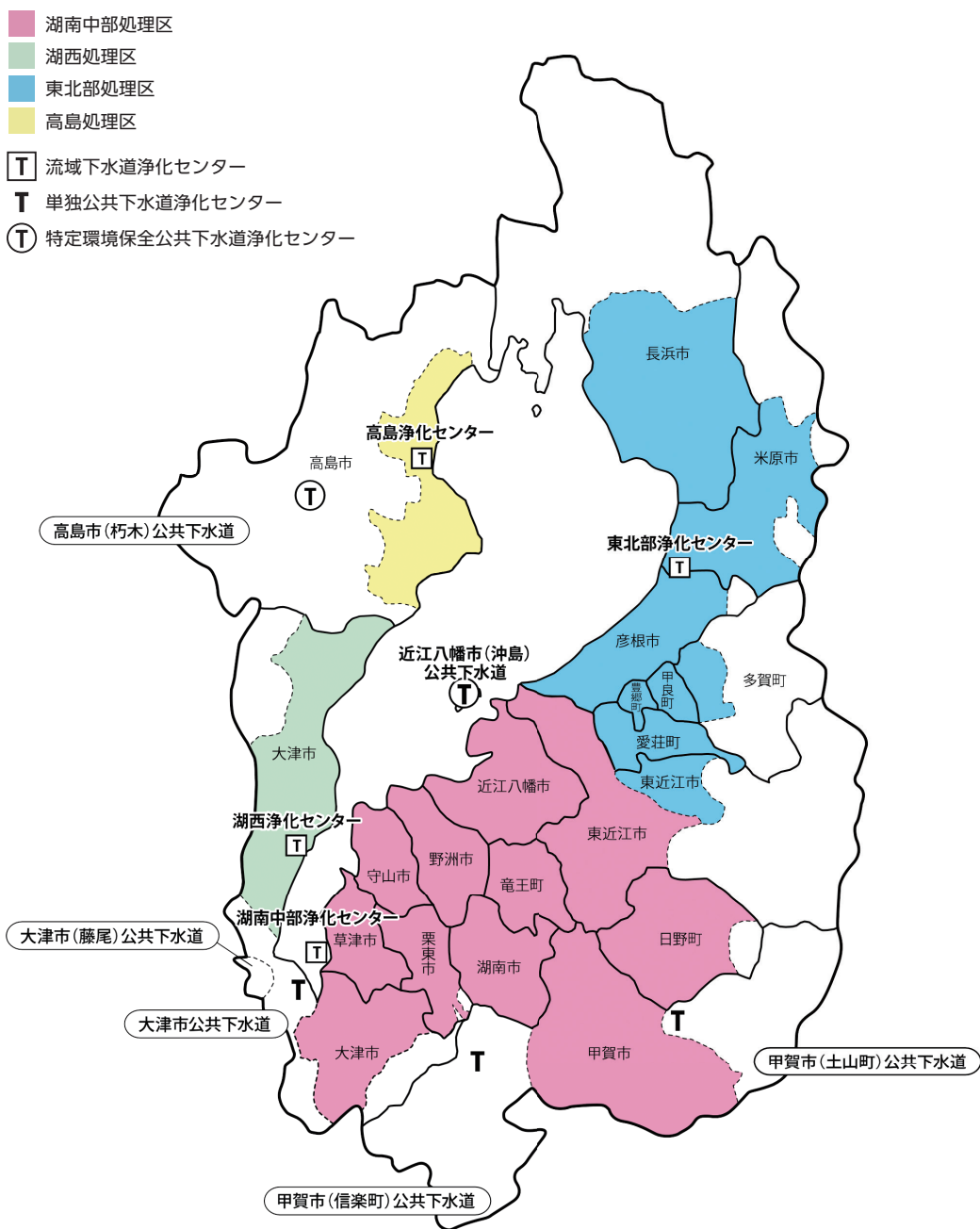
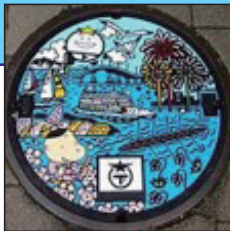


第4章

公共下水道



大津市



本市は、古代から現代に至るまで、市域の数多くの地域が歴史の舞台となっており、比叡山延暦寺をはじめ、歴史的建造物が数多く残されています。今日では、高い交通利便性の下、便利で住みやすい居住空間となっています。

本市の下水道は、県内の市町で最も早い、昭和36年度に市中央部の旧市街地から事業着手して以来、積極的な整備に取り組んできた結果、令和3年4月1日現在で人口普及率98.5%と滋賀県や全国平均を大きく上回る整備状況となっています。そして、半世紀以上を経た今日に至るまで、公衆衛生の向上や浸水被害の解消、さらには、近畿の重要な水資源である琵琶湖の水質保全のため、重要な都市基盤施設として大きな役割を果たしてきました。

一方で、近年は下水道整備の進展に伴い増大した施設（処理場1施設、ポンプ場144箇所、污水管渠1,478.2km、雨水渠施設約92km）の経年化が進むほか、大規模災害への対策が必要とされており、計画的な施設改修や地震対策、頻発する都市型水害への対応、被災時における危機管理体制の充実など、下水道事業に求められるニーズの変化がみられます。

また、平成22年4月には、一層の経営の効率化に向けて、下水道事業に地方公営企業法を全部適用の上、市長部局の建設部から企業局へ組織統合しました。

今後は、「施設の建設」から「施設の維持管理及び改築更新」に向けた、持続可能な下水道事業の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。



近畿初ポケモンマンホール設置式でのピカチュウとおおつ光ルくん

令和2年度実績 (流域下水道関連)	
面積	4,132 ha
人口	226,171 人
普及率	97.9 %

近江八幡市



本市は、滋賀県のほぼ中央、琵琶湖の東側に位置し、日本唯一の淡水湖の有人島である沖島を有します。ラムサール条約の登録湿地である西の湖は琵琶湖最大の内湖であり、ヨシの群生地である水郷地帯は琵琶湖八景の一つです。豊かな水と土壌の恵みを受け、古くから農業を中心に栄え、中世以降は陸上と湖上の交通

の要衝という地の利を得て、多くの城が築かれました。織田信長の改革精神により開かれた楽市楽座は、豊臣秀次の自由商業都市思想に引き継がれ、近江商人の基礎を築きました。

平成22年には旧近江八幡市と旧安土町が合併して近江八幡市が誕生しました。新市発足以降、新市基本計画に基づいて、「暮らす人」「働く人」を中心に、「人」が主役となるまちづくりを進めてきたところです。

本市の下水道事業は、旧近江八幡市地域では八幡堀の復活や周辺水域の水質保全を目的に、昭和49年度から琵琶湖流域関連公共下水道として整備を推進し、旧安土町地域においても西の湖の水質保全を目的に昭和59年度から整備を推進しました。令和3年3月末の整備面積は1533.9haとなり整備率88.0%、普及率83.0%となりました。また、沖島においては単独特定環境保全公共下水道として昭和57年に供用開始しており、普及率は100%です。



近江商人のシンボル「八幡堀」



今後は継続的に水洗化率向上に取り組むとともに、施設の長寿命化や更新等適正な維持管理を行い、効率的で持続的な事業運営に努めます。

令和2年度実績 (流域下水道関連)	
面積	1,534 ha
人口	68,053 人
普及率	83.0 %

草 津 市



本市は、古代官道が走るなど古くからの交通の要衝でもあり、江戸時代になると、京都と江戸を結ぶ2つの大きな街道、東海道と中山道が分岐・合流する全国で唯一の宿場町、「草津宿」として、街道の賑わいをきわめており、現在もJR東海道本線、国道1号、名神高速道路、新名神高速道路、京滋バイパス等が集積するなどの立地特性があり、近畿圏・中部圏を結節する地域として発展しております。

本市の下水道事業は、昭和49年から事業に着手し45年以上が経過しています。また、農業集落排水施設は、令和元年度に、公共下水道へ接続を完了したことにより、令和2年度末現在、整備面積2,620ha、下水道普及率は99.7%、水洗化率は98.4%に達しました。

汚水管渠も、令和2年度末に約540kmに達しており、古い管渠の経過年数は、令和2年度末で49年であり、今後管渠の法定耐用年数である50年に差し掛かってきます。しかし、全管渠の平均経過年数は25年程度と比較的若い状況にあるといえます。

今後は、未普及対策だけでなく膨大な下水道施設の状況を客観的に把握、評価し、長期的な施設の状態を予測しながら、事業費用の平準化と、長寿命化を図りながら下水道施設を計画的かつ効率的に管理することやまた、緊急輸送路の耐震事業を進めております。



草津宿本陣



草津川跡地公園 de 愛ひろば

令和2年度実績 (流域下水道関連)	
面積	2,620 ha
人口	135,817人
普及率	99.7%

守 山 市



昭和45年7月1日に人口35,000人余で誕生した本市は、令和2年7月1日に市制施行50周年の大きな節目を迎えました。駅前周辺を始め、市街地でゲンジボタルが飛翔する美しい水環境、豊かな自然環境、琵琶湖や比良・比叡の山並みを望む素晴らしい景観を持つ「のどかな田園都市」であるとともに、京阪神からの利便性の高さや医療・教育機関の充実により、若い世代を中心に毎年人口が増加しています。

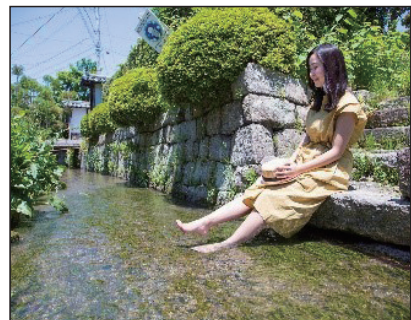
そうした中、本市の下水道事業は、公共用水域の水質保全や生活環境の改善等を目的に、未普及地域への施設整備を集中的に行い、令和2年度末で普及率は97.7%となるとともに、経費削減を目的として、今年度末にはすべての農業集落排水処理施設の公共下水道への接続替えが完了する見込みです。

また、本市のマンホール蓋は、「守山のゲンジボタル」をメインにした背景に、守山市の観光資源として欠かすことのできない「琵琶湖大橋」を図案化し、四季を通じて市民が関心と愛着がもてるよう、空間部にさざなみ（せせらぎを包括）・えり・比良山を配しており、特にホタルは環境浄化のパロメーターとも言われ、下水道のイメージアップに寄与するものとなっています。



琵琶湖大橋

50周年を契機に市民の皆様とさらに力を合わせて、「住みやすさの充実」と「活力のあるまちづくり」を両輪として、魅力にあふれ、安全、安心に暮らせる『住みやすさ日本一が実感できるまち守山』の実現に向けて取り組んでいます。



ホタル河川

令和2年度実績 (流域下水道関連)	
面積	1,657 ha
人口	82,658人
普及率	97.7%

栗 東 市



本市は、滋賀県の南部に位置し、市の北部は平坦地、南部は緑豊かな山地となっています。本市の大きな特徴として、昭和44年に全国に2箇所しかない日本中央競馬会の競走馬の調教施設、栗東トレーニング・センターが開設して以来、多くの馬、そして調教に携わる人たちが暮らすなど馬との関わりが深いまちとなっており、その知名度は全国的にも高く、大きな地域資源の一つとなっています。

また、江戸時代には、五街道のうち、東海道、中山道が通過する交通の要衝として発展し、現在でも国道1号・8号をはじめ、名神高速道路栗東インターチェンジ、JR栗東駅や手原駅を有する交通結節点となっています。こうした立地特性により、製造業・商業・流通業など数多くの企業の立地と大規模な住宅整備が進み、人口は昭和35年（1960年）以降、増加の一途をたどっています。



旧和中散本舗

本市の下水道事業は、昭和48年度に事業着手し、昭和57年度から供用を開始しました。市街化区域を中心に着実に整備面積の拡張を進め、現在では整備事業の概成を迎えています。今後は、本市の将来都市像である「いつまでも住み続けたいくなる安心な元気都市栗東」の実現に向け、市民生活において必要不可欠なライフラインである下水道を市民が安心して利用でき、また次世代に継承することができるよう持続可能な下水道事業をめざしています。



栗東ホース倶楽部（乗馬体験の様子）

令和2年度実績 （流域下水道関連）	
面積	1,676 ha
人口	69,567人
普及率	99.1%

甲 賀 市



本市は、滋賀県の東南部に位置し、東に鈴鹿山系を望む丘陵地で、野洲川、柚川、大戸川沿いに平地が広がり、琵琶湖の水源涵養や水質保全に重要な役割を担っています。奈良時代には紫香楽の宮が造営され、江戸時代には城下町や宿場町として栄え、歴史資源にも恵まれています。平成29年には、「忍びの里伊賀・甲賀～リアル忍者を求めて～」、「きっと恋する六古窯 ～日本生まれ日本育ちのやきもの産地～」として日本遺産にも認定されました。

本市の公共下水道は、流域下水道湖南中部処理区と土山処理区、信楽処理区の2つの単独下水道を有しています。流域下水道湖南中部処理区の下水道整備は、昭和59年度から水口町、昭和63年度からは、甲賀町、甲南町の整備を進め、現在約89%の整備が完了しています（令和3年4月1日現在）。平成28年度には、公営企業会計に移行し事業運営の効率化や健全化を図っています。

人口減少が急激に進むこれからの時代に「住みつけたいまち」、「選ばれるまち」として魅力を高め、市民一人ひとりが「まち」の主役になれる「オール甲賀」のまちづくりを目指し、これからも取り組んでいきます。



信楽駅（忍者列車）



忍者館

令和2年度実績 （流域下水道関連）	
面積	2,444 ha
人口	63,610人
普及率	88.6%

野 洲 市



本市は、平成16年10月に旧野洲町と旧中主町が合併し、誕生しました。滋賀県南部の湖南地域に位置し、面積は80.14km²となっています。

三上山の山麓には、希望が丘文化公園、近江富士花緑公園等が立地し、自然環境とレクリエーションを親しめる施設が広がっています。琵琶湖湖岸周辺にはピ

ワコマイアミランド、マイアミ浜オートキャンプ場等の自然公園やレジャー施設があります。さらには、多数の銅鐸が出土し、「銅鐸のまち」として知られ、古墳群や神社仏閣など豊富な歴史・文化遺産に恵まれたまちでもあります。

本市の公共下水道事業は、旧野洲町では昭和50年度に、旧中主町では昭和53年度に事業着手し、昭和57年4月に琵琶湖流域下水道（湖南中部処理区）関連公共下水道として供用を開始し、公共用水域の水質保全および生活環境の改善に寄与してきました。



兵主大社

特定環境保全公共下水道事業は、旧野洲町では平成元年度、旧中主町では昭和62年度に事業着手しています。また農業集落排水事業は旧中主町において、昭和62年度に事業着手し、令和元年度に公共下水道事業に統合されました。

これからは、持続可能な下水道サービスの提供のために、健全経営を維持し、より安全で快適な生活環境、水質環境の保全を図ってまいります。



三上山

また農業集落排水事業は旧中主町において、昭和62年度に事業着手し、令和元年度に公共下水道事業に統合されました。

令和2年度実績 (流域下水道関連)	
面積	1,322 ha
人口	50,321人
普及率	99.0%

湖 南 市



本市は琵琶湖の南に位置し、北部・南部が丘陵地に囲まれ、中央は野洲川付近一帯に平野が開けた、水と緑に囲まれた自然環境に恵まれた地域です。

古くは東海道の宿場町として栄え、名神高速道路の開通により県内最大の湖南工業団地が造成されました。国道1号並びにJR草津線が東西を縦断しており、京阪神都市圏のベッドタウンとして住宅開発が進み、近年では、栗東湖南インターチェンジや国道1号バイパス等の整備により、さらに利便性が向上しています。

また、市内には「湖南三山」と称し、それぞれ国宝の建造物を有する常楽寺、長寿寺、善水寺のほか、由緒ある寺社が点在しているとともに、天然記念物のウツクシマツ自生地があるなど、歴史文化・自然遺産も豊富です。

下水道事業は、旧甲西町で昭和54年度に当初認可を受けて事業に着手し、昭和63年度に供用を開始しました。旧石部町では、昭和60年度に事業に着手、平成4年度に供用開始し、合併後の平成20年度には「琵琶湖流域下水道（湖南中部処理区）関連湖南市公共下水道」として区域を統合し、下水道事業整備を進めてきました。現在の下水道普及率は98.2%となり、令和7年度末の完了を目標に、終盤を迎えた整備事業を進めています。



オートキャンプ場(ゆらら)



善水寺千灯会

令和2年度実績 (流域下水道関連)	
面積	1,812 ha
人口	53,851人
普及率	98.2%

東 近 江 市



本市は、滋賀県の東部に位置し、鈴鹿山脈から琵琶湖まで広がる多彩な市域を有しています。市域には、鈴鹿国定公園や湖東平野に広がる田園や一級河川愛知川・日野川、琵琶湖といった雄大な自然が広がり、「伊庭内湖の農村景観」は国の重要文化的景観にも選定されています。

また、本市は、額田王と大海人皇子の相聞歌の舞台となった蒲生野や、永源寺、百濟寺、石塔寺など多くの古刹があることでも有名です。中世以降は市場町や門前町に連なる交通の要衝の地として栄え、近世には近江商人が活躍し、多くの企業家を生んでいます。

このように豊かな自然と歴史・文化を有する本市の下水道事業は、昭和52年に市町村合併前の旧八日市市で流域関連公共下水道事業に着手して以来、合併前の各市町でそれぞれ取り組んできました。その後、平成17年2月11日には、1市4町（八日市市、永源寺町、五個荘町、愛東町、湖東町）が合併して「東近江市」が誕生し、さらに平成18年1月1日には、東近江市と蒲生町及び能登川町が合併し、現在の「東近江市」となりました。このような合併の関係もあり、本市には流域関連公共下水道の処理区が、湖南中部処理区と東北部処理区の2つあるという特徴があります。



なお、現在の下水道事業は、農業集落排水を公共下水道へ接続する工事を主として進めています。



太郎坊宮（小脇町）



蒲生野での遊獵を描いたレリーフ
（万葉の森 船岡山）

このように豊かな自然と歴史・文化を有する本市の下水道事業は、昭和52年に市町村合併前の旧八日市市で流域関連公共下水道事業に着手して以来、合併前の各市町でそれぞれ取り組んできました。その後、平成17年2月11日には、1市4町（八日市市、永源寺町、五個荘町、愛東町、湖東町）が合併して「東近江市」が誕生し、さらに平成18年1月1日には、東近江市と蒲生町及び能登川町が合併し、現在の「東近江市」となりました。このような合併の関係もあり、本市には流域関連公共下水道の処理区が、湖南中部処理区と東北部処理区の2つあるという特徴があります。

令和2年度実績 （流域下水道関連）

面積	2,686 ha
人口	90,206 人
普及率	79.5 %

日 野 町



本町は、戦国時代に蒲生氏郷公が町の礎を築き、江戸時代には近江日野商人が全国で活躍することで町をさらに発展させていきました。5月の湖東地方最大の春祭である「日野祭」では、絢爛豪華な曳山の巡行とともに、心地よいリズムの祭囃子（まつりばやし）が響き渡ります。

また、日野町の最大の魅力は、恵まれた自然と美しい景色です。標高1,110mの雄大にそびえる霊峰綿向山や、四季折々に咲く花の景色は見る者の心を和ませてくれます。

緑の中で便利で快適な毎日を過ごせることをキーワードに、中心市街地は土地区画整理事業や公共下水道整備を進め、中山間地域は農村下水道整備を進め、快適で住みよいまちづくりに取り組んできました。令和2年度末現在、汚水処理施設人口普及率は、



綿向山を望むコスモス畑

99.4%に達しています。

現在は、雨水排水の整備により中心市街地の浸水対策を進めており、降雨災害に強いまちづくりを目指しています。

当町の下水道マンホール蓋のデザインは、町の花「ホンシャクナゲ」と、近江日野商人を表現した独特の図柄です。歴史の風土と自然に恵まれた日野町を次世代に継承することができるよう持続可能な下水道事業に取り組んでいます。



日野祭り

令和2年度実績 （流域下水道関連）

面積	712 ha
人口	16,564 人
普及率	78.2 %